

普及活動情勢報告

情勢報告（平成27年11月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

新規就農者講習会（ミョウガ・ピーマン）



11月13日、興津地区でミョウガとピーマンの新規就農者勉強会を開催しました。後継者として両親の農作業を手伝っている青年等に声をかけたところ、当日は7戸(9名)が集まりました。

両品目での複合経営の方が多いため、普及所からは経営や土づくり・施肥について説明しました。また実際に興津地区特有の砂質土、壤質土、腐植に富んだ土などに触れてもらうこともしました。

今後、JA四万十と協力しながら、4月まで月1回ずつ勉強会を開催する予定です。

ニラ出荷販売検討会



11月18日、ニラ出荷販売検討会が、四万十農協会館にて開催されました。市場・園芸連担当者からは市場動向、JAからは販売金額が過去最高になったことを含めた平成27園芸年度出荷概要の報告がありました。

普及所からは「ハウスニラ栽培における炭酸ガス施用事例」等について報告し、熱心にきいていました。今後も、関係機関と連携し、炭酸ガス導入農家の環境制御技術向上のための支援を行います。

大正・十和地域の営農支援検討のための先進地研修



10月29日、普及所主催で、大正・十和地域の農業関係機関、団体職員10人が参加して、JAおちいまばりの営農支援グループ「心耕隊」及び（株）ファーム咲創の取り組みについて研修しました。

地域条件等は異なりますが、果樹中心の作業受託の組み立てなど、参考になりました。

11月13日には、研修結果を受けて、大正・十和地域での取り組みについて話し合いました。

今後も、営農支援のあり方を探っていきます。

床鍋農事組合法人総会及び研修会



10月30日、21人（委任状を含む）が出席して、総会及び研修会を開催しました。

普及所からは、今後の床鍋集落の営農を考えるに当たり、組合員家族の年代構成や水稻機械の所有状況について、現状共有を図る作業を支援しました。

地図上にシールを貼る作業を通じて、知っているようで知らない現状が明らかになり、驚きの声がありました。

今後も、現状を踏まえた計画検討を支援します。

稲WC S 検討会



11月18日、稲WC S 検討会が、四万十農協営農総合センターで開催され、耕種及び畜産農家、関係機関合わせて18名が参加しました。

普及所からは、実証試験での生育状況や受託組織の作業分析結果を元に、品種や栽培計画を説明しました。

参加者からは「WC Sの品質向上に向け、夏場を越さない生産体系を考えて欲しい。」等の意見が出されました。

普及所は今後も、WC Sの品質向上や生産拡大に向けて栽培管理や四万十町に適応した品種等を指導していきます。

栗技術チーム会の開催



11月16日、栗技術チーム会を開催し、19名が参加しました。

チーム会では、超低樹高化を目指した「四万十の栗」方式のせん定について、普及指導協力委員が講義と実技を行うことにより、指導者間の技術向上や指導内容の平準化を図りました。

講義では生育ステージに応じたせん定の考え方について、実技では樹の状態に応じたせん定について、理解を深めました。

今後も普及所では、栗技術チーム会を通して、技術の普及促進を目指すと共に、関係機関と連携し、せん定講習会や現地巡回を実施し、北幡地域の栗の生産量の増加を目指します。

四万十枝豆プロジェクトチーム会



10月28日、枝豆PT会をJA四万十営農総合センター2階会議室で開催し、関係機関4名、生産者8名が参加しました。

今年度、栽培実証を行った品種比較の実績について、生産者ごとに栽培した品種の株当たりの着莢数や枝張りの違い、食味などの特徴を説明しました。これらのデータを踏まえて、来年度の栽培品種について、生産者の意向を聞き取りながら協議しました。

今後も普及所では、関係機関と協力して来年度の枝豆栽培に向けた支援を行っていきます。